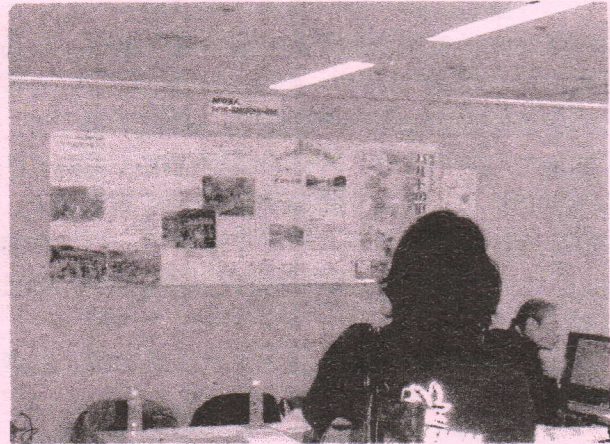


第27号
平成23年2月7日
発行
「市民活動情報紙
なると」編集委員会

市民活動 情報紙なると

鳴門市ボランティア
連絡協議会
☎685-7170
鳴門市市民活動
支援センター
☎685-7170



市民活動交流研修会会場

鳴門市のボランティア団体やNPO法人などが一堂に会して、第9回鳴門市市民活動交流研修会が1月30日、キョーエイ鳴門駅前店で開催されました。太陽と緑の会理事長杉浦良氏の講演やボランティアの希望者が、自分に合った団体を見つけるイベント「マッチングフェア」が行われ多くの参加者がありました。各団体の活動を紹介するパネルは2月5日まで展示していました。

「新しい社会貢献をめざして」

撫養農業研究会福祉園芸部会
馬居 勉

私たち撫養農業研究会は、地域の農業の活性化を目標に撫養地区の有志たちで5年前にたちあげ、主に学習会を月1回開いています。市街化がすすんでいる地域の特性もあり、学習のおもは、今よく農商工連携6次産業などとよくいわれていますが会では、もっと進み、地域連携農商工、社会農商工、福祉農商工、歴史農商工、環境農商工、人農商工など無限の可能性を産みだせるものを学んでいます。その中から会員の武田さんによって竹を粉砕する機械をみずからこしらえて、できた粉に「竹パウダー」と名をつけ農業に利用し、びっくりする作物ができて今全国から問い合わせや見学者がたえません。

現在会は、学習会を中心に会の中では、政治宗教の特定の団体活動はしない。思想主張はもちこまない。かたよらない。会員は、会長以外は1度でも参加されると全員副会長になるという会員参加型の会則のもとで、地区以外の農家の方々いろんな職業や経験をつまれた方々の参加によって異業種交流がすすんでいます。

自治活動とNPO法人、企業等の活動の間をつなぐ、全方位の皆んなの自主学習会という位置づけで自主運営されている。その中で具体的には福祉園芸部会は、自治会とボランティア活動の中間をいく会の特性をふまえ社会貢献へ取りくんでいこうという部会です。社会に貢献できる可能性をさぐり活動していきます。興味のあるかたは一度参加してみませんか。



『若さは心のあり方』

ジョブOBネットワーク
仁尾 國雄

事務所を徳島市へ移転しましたが、一緒にできる活動があればと思っています。



平均年齢64歳？NPOジョブOBネットワークの事業推進委員会の平均年齢、65歳以上を高齢者という定義づけが一般になされておりますので事業推進メンバーも高齢者の仲間入りです。

退職された方々が、互いの研鑽を積み活動できる場所づくり、長年の経験を活かし仕事を創造、新たな人とのつながり（ひとネットワーク）を構築し、社会参加する。早いもので創設から5年を迎えます。

前述の『平均年齢64歳！』と言うのは、助成事業『ここまっぴ』プロジェクト委員会のことです。退職後NPO、自治会、民生委員、新現役、ボランティア等々で活動している方々で、NPOひとネットワークで出会った人たちです。このような人たちが提案・企画・共働で社会課題に取り組む事業も活動の一つです。

NPOマッチング支援事業をご紹介します。この活動は、長年培ってきたOB人材の技術、知識、経験を中小企業、個人事業者、団体等の課題解決に繋ぐ橋渡しをしています。



鳴門市の『なるとビジネスサポート制度』も、まさしくOB人材とOB人材の技術、知識など活用するマッチング事業です。NPOジョブOB人材も登録、ご協力させていただいております。昨年の活動より地域コミュニティにおける人材不足ニーズが顕在化、今後は地域コミュニティ等への人材橋渡しのお手伝いできればと思っています。

NPOとして歩み始めた頃、NPO先駆者から『たくさんのNPO等が会計・決算に課題をもっているのでサポートできんて！』と宿題をいただきました。やっとのことですがジョブOBによるNPO決算ソフト『JOB会計』が、皆様のご協力のもと、自社開発することができ、日頃ご苦労されているNPO等の会計・決算など業務改善のお手伝いにやっとスタートできるようになりました。

平均年齢64歳！高齢者！かもしれませんが『若さは心のあり方』、少子高齢化時代の中で身の丈にあった役割を担いNPO活動していきたいと思います。

仲間手づくりのホームページ <http://www.jobnet.v-npo.jp> を閲覧下さい。

第10回とくしまNPOフォーラム開催

シニア『生きがいさがし』サロン
～あなたの社会参加「キッカケ」を見つけませんか！～

日時 平成23年2月20日（日）
13:00～17:00

内容 1部 講演：生涯現役スーパー爺さん
小椋 健司 氏

2部 社会参加「キッカケ」サロン
ボランティア、趣味サークル、
新しい働き方、NPO、援農、
IT勉強会等の皆さんと情報交流

場所 徳島県障害者交流プラザ3階 プレイルーム

参加費 無料

問い合わせ先

NPO法人ジョブOBネットワーク

☎080-2980-6531

支え合いと活気ある社会に向けて！（新しい公共による地域づくりへの挑戦）をテーマに第10回とくしまNPOフォーラムが12月18日、19日の2日間、徳島大学・常三島キャンパスで行われました。初日は、ひろしまNPOセンター代表理事安藤周治氏が新しい公共と市民活動の発展に関する基調講演を行い、その後、これからのNPOに期待されるもの～新しい公共の担い手として～と題してパネルディスカッションがありました。二日目は「福祉のネットワークづくり」や「NPOの地域ビジネス起業力」などをテーマとする5つの分科会があり、各会場とも真剣な議論が展開されました。

バルトの庭から世界平和を！！

NPO法人ドイツ村—BANDOROケ村—保存会
理事長 林 宏明



私達は「NPO法人ドイツ村BANDOROケ村保存会」と申します。2006年に公開されました映画「バルトの楽園」のロケセットは、一般公開された後、諸般の事情により閉村となりましたが、ドイツ兵俘虜と地元民との温かい交流の歴史を後世に語り継ぎたいとの思いから、2010年4月主要施設十一棟を移築して「阿波大正浪漫バルトの庭」として新たにオープンさせていただきました。

施設自体はロケ村に較べてコンパクトになりましたが、ドイツ兵俘虜が三年近くを過ごした「板東俘虜収容所」を再現した施設が随所に建ち並び、本物に近い雰囲気を感じていただけますし、無料でスタッフが施設内をガイドさせていただいているのも、当園が誇りとしているおもてなしの一つです。

オープン以来、ドイツ兵の生活体験に根差した各種イベントも開催してまいりました。八月のビール祭り、十月の射的大会、十一月の歴史散歩「アオス・フルーク（ドイツ兵俘虜の足跡を尋ねて）」十二月のクリスマス祭など、御来園された方々にも好評をいただいております。当時収容所内は自給自足で、ドイツ兵は自分達が食するパンを焼いていたとの史実に基づき、パン焼き釜も製作中で完成間近となっております。また、他の市町村で同じ様に活動している方々との交流を深めたいとの思いから、丸亀ドイツ兵俘虜研究会の方々とも情報交換をしていく予定です。

何分にも発足したばかりであり、NPOとしての活動も手探りの状態で至らぬ点多々あるとは思いますが、鳴門西地区の観光の拠点として定着させて行きたいという意気込みで頑張っております。施設内は全てバリアフリーとなっておりますので御高齢の方、御身体の不自由な方にも安心して御利用いただけます。是非一度御来園いただき、施設運営に御理解、御支援をお願い出来ましたら有難く思います。皆様のお越しをスタッフ一同よりお待ち申し上げます。

2011年度（第9回） ドコモ市民活動団体への助成

「子どもを守る」をテーマに子どもたちの
健やかな育ちを応援する活動

☆助成対象活動

1. 不登校・ひきこもりの子どもや保護者に対する精神的・物理的な支援、復学・社会的自立支援活動
2. 児童虐待やドメスティック・バイオレンス（DV）、性暴力などの被害児童・生徒を保護・支援する活動
3. 非行や地域犯罪などから子どもを守るための支援活動
4. 子どもの居場所づくり（働く親支援のための安全な保育、子どもの不安や悩みに耳を傾ける相談活動など）
5. 軽度発達障がいを持つ児童の支援活動
6. 上記（1）から（5）以外で「子どもを守る」という視点に立った活動テーマに相応しい支援活動

◇助成対象団体

- ① 日本国内に活動拠点を有する民間の非営利活動団体でNPO法人などの法人格を有するもの
- ② 活動実績が2年以上である団体（法人格を有する以前の活動実績を含む）
- ③ 複数のNPOが連携した協働事業で、地域の中間支援組織が代表申請団体となる場合は、その協働グループ

◇助成対象期間

2011年10月1日～2012年9月30日
に実施する活動

◇助成金額

50万円（200万円まで可能）

◇締切り日

2011年3月31日（必着）

◇問い合わせ先

NPO法人モバイル・コミュニケーション・
ファンド（ドコモMCF）
☎03-3509-7651

北灘地区自主防災会について

北灘地区自主防災会会長 大西 英男

1. 北灘地区自主防災会発足

平成22年9月30日に北灘地区、関係団体会員50名が、北灘公民館において設立総会を開き、鳴門市関係部署職員立会いのうえ、北灘地区自主防災会が新発足しました。

2. 北灘地区の地形

鳴門市北灘町は、東西15kmと細長く、山が迫り、海岸が浸食され、テトラポットの防波堤が沖合300メートルのところを海岸線とほぼ平行に設置されています。港は、一般港として折野港、漁港として大浦、粟田、櫛木、碁浦の各港があります。地区の中央を国道11号線が走り、15キロあります。地形が地区住民の避難行動に大きく影響します。水害や暴風、高潮により国道が寸断される危険性が大きいからです。

3. 震災、火災、水害発生時の避難

日頃から災害発生時の避難経路、避難場所について、地区の集落別に各団体の責任者が把握し、住民に伝えておくことが大切です。公民館、集会所などへ避難する場合でも、その時機を失しないようにしなければなりません。

4. 防止訓練の実施

地区防災訓練計画を策定し、鳴門市全体、北灘地区全体、更に細分化し、各集落毎に防災訓練、避難誘導訓練を実施する必要があります。高齢者や体の不自由な方々の避難には、住民、とくにご近所の方の協力が大切であります。訓練を実施しなければなりません。

5. 経験を防災に生かせないか

私は、国鉄宇高連絡船（現JR四国）阿波丸（総トン数3,100トン）などの船長を勤めていました。連絡船は、旅客定員が2350人で北灘町の住民と同数です。当時、旅客船の乗船定員では日本で最大でした。宇野高松間18キロを1時間で結んでいました。お盆、正月は全便が満員でした。子ども2人で大人1人の換算ですから、子ども300人とすると、総数2500人が乗船していました。宇野高松間の備讃瀬戸は、大小の船舶が行き交い、一日の通行は800隻で、船舶交通の難所でした。船舶の衝突、火災、転覆、浸水、座礁、乗り上げなど事故が多発していました。そこで連絡船は、操舵装置、主機、救命いかだ投下などの個別訓練の実施、また、月1回総員退船、避難誘導の訓練も実施していました。私は、この経験を地区の自主防災の面に生かせないかと模索しているところです。



行事のお知らせ

平成22年度コミュニティ講演会

日時 平成23年2月26日(土)
10:00~12:00
場所 鳴門市老人福祉センター3階
会議室
演題 「人と人とのつながり」
講師 長谷寺 名誉住職
小塩 祐光 先生
参加費 無料
問い合わせ先
鳴門市自治振興連合会事務局
☎684-1189

第2土曜日おはなしたいむ

日時 毎月第2土曜日
10:30~11:00
場所 鳴門市立図書館1階
児童室おはなしのへや
語る人 モモの会
参加費 無料(申込み不要)
問い合わせ先
NPO法人「ふくろうの森」
☎・FAX685-0389